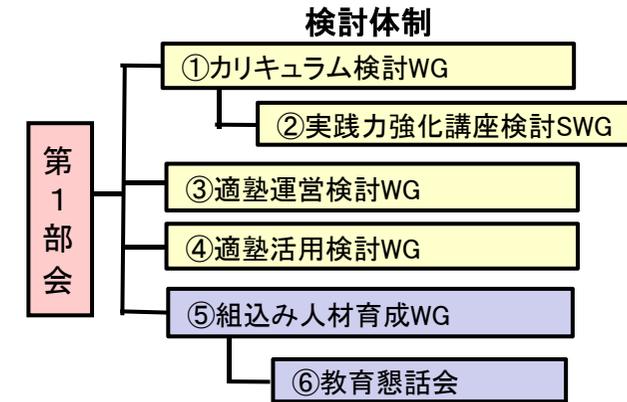

2018年度活動報告



1. 教育事業(第1部会) 活動報告

2018年度 事業計画

1. 「組込み適塾」ブランドの価値向上と持続可能な運営プロセスの確立
 - (1)技術トレンドと産業界のニーズを踏まえたカリキュラムの改善・拡充(①、②)
 - (2)持続可能な運営を目指した業務プロセスの確立(③)
 - (3)公的機関による”お墨付き”取得等によるブランド力向上(④)
2. 自由に議論が出来る”場”の提供
 - (1)関係者/講師/受講生間の自由で活発な交流の”場”の提供
 - (2)社会人向け組込み教育事業関連団体との交流(①~④)
3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献
 - (1)STEP5に向けた組込み人材育成指針の策定(⑤、⑥)
 - (2)企業の人材育成プログラムへの組込み適塾の積極活用支援(④)
 - (3)組込み適塾修了生が活躍できる場の提供・拡大(WINKとの連動等)(④、⑤)



2018年度の実績

1. 「組込み適塾」ブランドの価値向上と持続可能な運営プロセスの確立

【実績】第11回適塾は4年連続で過去最多受講者数を更新。運営の安定・効率化施策を継続。受講生満足度90%を達成。参加企業の人材育成に大きく貢献。

- ・受講者数:257名(前年比127%)、延べ受講講座数 778講座(前年比114%)。講座受講の大幅増の一方でコース/科目一括受講は減少傾向に。
 - 新規参加機関の比率は約40%で、前年より増加。遠隔での参加機関数は増加したが、関西では横這い。
 - 遠隔講座は受講者数(48名→61名)、参加機関数(13社→22社)とも大幅増。
- ・受講生の理解度・業務役立ち度も前年度より良化し、高水準を維持。昨年導入の満足度は90%超を達成し、事業計画目標を大きくクリア。
 - 理解度:89.8%(前年:87.6%)、役立ち度:84.3%(前年:82.1%)、満足度:90.4%(前年:85.7%)。
- ・持続可能な運営を目指した業務プロセスの改善を実施。
 - アウトソースの業務範囲を拡大し、講師との直接対応(評定・アンケート回答の依頼・督促)を追加。 - 業務マニュアルの作成を完了。
 - Web会議”zoom”の導入により遠隔接続の安定性は飛躍的に向上したが、遠隔との一体感・臨場感と宮城産総研会場の音声品質が依然として課題。
- ・公的機関のお墨付き取得に向け表彰・認定制度を調査。経産省の「情報化促進貢献表彰」、「iCD認証」等を調査中。

2. 自由に議論が出来る”場”の提供

【実績】受講生・講師・適塾関係者が自由闊達に議論し、組織の壁を越えて交流できる”場”を提供。講師会を初めて関東でも開催。

- ・入塾式・修了式後の交流会、講師・受講生間の交流会(3回:48名)、地域交流会(2回:18名)、講師会(関東:14名、関西:9名)を開催。
- ・社会人向け組込み教育事業関連団体との交流について、enPiT-Pro実施拠点大学にコンタクト。具体的な交流・連携方法を検討中。

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

【実績】第1部会事業指針を策定、STEP5検討部会・企画運営委員会にて報告。教育懇話会を3回開催。遠隔中継型出前講座を3講座(2日間)試行。

- ・「十字型人材の輩出」「組込み適塾のブランド力向上と持続可能な運営」を目標とするSTEP5部会事業方針を策定。これを踏まえ適塾の科目を再編。
- ・教育懇話会(3回)を通じて人材育成施策を検討:1回は外部講師による講演、残り2回は会員企業の人材育成担当者や適塾修了生を招いてパネル討論。
- ・ソシオネクスト(新横浜)向けに、2日間(3講座)の中継型出前講座を試行。当日運営は問題なし。2019年度からの実運用に向けたガイドラインを策定。

2. ビジネス創出支援事業(第2部会) 活動報告

2018年度 事業計画

1. 展示会開催によるビジネス支援 と 戦略的出展によるマッチング精度向上

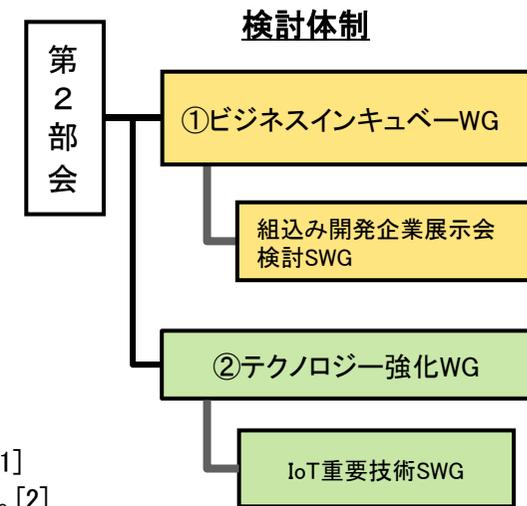
- (1) 展示会の開催による会員企業のビジネス支援。[1]
- (2) 戦略的な出展先(業種、企業、部署)選定によるマッチング精度向上。[1]
- (3) 出展企業のニーズ情報の事前提供によるマッチング精度向上。[1]
- (4) 展示会の効果の定量化による客観的評価。[1]
- (5) 展示会開催後のビジネス支援強化。[1]

2. プライベートセミナーによる競争力強化支援

- (1) 会員に関心の高いテーマでプライベートセミナーを企画・開催し競争力強化支援。[2]
- (2) 組込み開発企業展示会で高評の産総研講演を会員向けに開催(プライベートセミナー)。[2]
- (3) ワークショップ開催による会員交流・会員連携につながる場の提供。[2]

3. WINK2018と連携しオープンイノベーション創出の場を提供

- (1) 組込み開発企業展示会テーマとマッチした商品・サービス商品は、出展を提案しビジネス支援。[1]
- (2) プライベートセミナーでのテーマ展示、ワークショップでのアイデアのブラッシュアップの場を提供。[2]



2018年度 実績

1. 展示会開催によるビジネス支援 と 戦略的出展によるマッチング精度向上

- 【実績】戦略的に出展先を選定し、事前見学会・説明会の実施により出展先ニーズに応えた展示会を実施。出展先の来場者から高い評価を獲得。
- ・ 展示会開催： デンソー 本社(4月) 村田機械 本社(8月)、ダイヘン 六甲事業所(2月)。
 - ・ 戦略的な出展先選定： 会員企業からの出展要望(村田機械)、STEP4重点4分野(ロボット:ダイヘン)により出展先企業を選定。
 - ・ マッチング精度向上： 事前に出展先企業を訪問し、見学会・説明会を実施。出展企業からの質疑応答により展示内容をカスタマイズ。
 - ・ 定量化による客観的評価： 来場者の来場目的、来場効果、事前資料確認をアンケートにより定量化。ダイヘンでは、冊子の事前配布・閲覧により、目的意識(ビジネスパートナー探し)、来場効果(業務に役立つ展示)が向上と推定。
 - ・ 開催後のビジネス支援強化： 展示、プレゼンに興味をもった来場者の名刺情報を出展企業に提供。

2. プライベートセミナーによる競争力強化支援

- 【実績】会員企業の関心が高い、「AI」、「IoT」をテーマに4回開催。セミナー後に参加者の課題や疑問を、講師と直接議論できる懇談会が好評。
- ・ プライベートセミナー開催： 年4回、会員企業の関心の高いテーマを選定して実施(テーマ: AI 3回、IoT 1回)。
定員30名に対し、第3回(IoT)、第4回(AI)は専門性が高く14名、18名の参加であったが、懇談会で技術的に深く活発な議論ができたと好評。
 - ・ 産総研講演： 村田機械で好評であったAIテーマ(AIによる異常検出)をプライベートセミナーでも講演。
 - ・ 会員交流・会員連携につながる場の提供： 講演後に1時間程度の時間を設け、会員課題や疑問を講師と直接議論する懇談会を実施。

3. WINK2018と連携しオープンイノベーション創出の場を提供

- 【実績】WINK受賞チームに企業展示会、プライベートセミナーの場を提供。WINK2017受賞チームが企業展示会に参考出展。
- ・ オープンイノベーションの場の提供： WINK2017受賞チームが、デンソーでの企業展示会に参考出展。

3. 企画広報事業(企画広報部) 活動報告

2018年度 事業計画

1. “WINK”コンテストを通じたイノベーション・プラットフォームの形成
 - (1) 類似施策及び関連団体との連携による協創型コンテストの形成
 - (2) 第1部会、第2部会、企画広報連動によるサービスインキュベーションの枠組みづくり
2. 国立研究開発法人、大学、独立行政法人等との連携による戦略的情報発信
 - (1) 研究機関との連携による情報発信やコラボレーションのきっかけづくり
 - (2) セキュリティ・IoTなど分野横断技術に関する幅広い情報発信
3. 全国組込み産業フォーラム(IoTイノベーションフォーラム)を通じた連携基盤強化
 - (1) 産学官による関西ものづくり産業の紹介とイノベーション事例の紹介
4. 部会施策の広報支援やプロモーションによる機構のプレゼンス向上
 - (1) 機構主要施策のプロモーション継続とホームページ更新による利便性向上(新聞、メディア記者等)
 - (2) 関連団体イベントへの共催・出展・後援などを通じた情報発信

2018年度の実績

1. IoTをテーマにしたワークショップコンテスト「WINK2018」実施(11/6) および WINK2017受賞チームに対しサービス化支援を継続
 - ・産学による実行委員会のもと、SDGsや大阪万博等を背景にテーマを設定。慶應義塾大学、ルネサスエレクトロニクスによる研修プログラム、情報通信研究機構ほか2団体によるアイデアの洗練化を経てコンテストを実施。ベンチャー企業や大学、専門学校など多様な団体から8チームが参加し、優勝、アイデア賞技術賞を選定。また、今年度はアイデア洗練化をオープン環境で実施するとともに、聴講者を一般募集しサービス化に興味を持つ一般の方も参加可能とした。
 - ・WINKの目標であるサービス化にはいたらなかったが、部会と連動して支援を継続的に実施。第2部会との連動では、組込み開発企業展示会(デンソー、4/25)へのWINK2017の技術賞チームの参考出展を実現。第1部会との連動では、今年度適塾からのコンテスト参加チームはなかったものの、適塾OBがチームの指導を行い技術賞受賞につながった。また、ナレッジキャピタル展示スペース「The LAB.」にWINK2017の優勝チームのテーマを展示(2019年1月～3月)。
2. 産学官の様々な団体と連携してセミナー・コンテストを開催、先進的な分野に関する情報を発信
 - ・関西情報センター、大阪商工会議所と連携し、新技術として発展が期待されるブロックチェーンに関するオープンセミナーを3回開催。参加者延べ324名。
 - ・産総研と連携しAIの品質保証に関するセミナーをWINK2018と同日開催、参加者70名。また、WINK2018実行委員会及び審査委員には大阪大学、慶應義塾大学、関経連、池田泉州銀行ほか5団体に参加頂き、またコンテスト参加チームのアドバイザーとして情報通信研究機構ほか2団体にご協力頂いた。
3. グランフロント大阪にて第8回全国組込み産業フォーラムを開催(2/1)
 - ・全国から組込み関連の10団体、産総研、経産省など、55名が参加。東北からマシンインテリジェンス研究会、関東からFA・ロボットシステムインテグレータ協会、中部からソフトピアジャパンが初参加、新たな連携先の創出につながった。
 - ・地域連携セミナー(オープンイベント)を同日開催。「多様なコミュニケーション・未来社会を支えるIoT」というテーマで開催、参加者80名。
4. 新聞記事掲載4件、外部イベントでの情報発信3件以上、共催・協賛・後援計8件、ホームページ・メルマガ等でのプロモーションを実施
 - ・機構施策の広報活動により、新聞記事4件掲載、内訳は総会関連3件、WINK2018関連1件。
 - ・科学技術・イノベーション委員会(7/4)にてWINKのプレゼン、NCESシンポジウム(9/7)にてWINKと適塾のパネル展示、組込み開発企業展示会(3回)にてWINKと適塾のパネル展示を実施。また、パンフレット配布は前記イベントに加え、関経連講演会(7/24)、ブロックチェーンセミナー(3回)、enPiTシンポジウム(1/24)等で実施、機構及び機構施策の情報発信を実施しプレゼンスの向上をはかった。
 - ・関連団体との連携の証と連携強化のきっかけとして、共催1件、協賛2件、後援5件を実施。機構名の露出を増やすとともに施策PRの場としても活用した。